

建設業者の海外進出

一月二十六日の日本経済新聞には、建設業界が海外の大工事に進出している状況が出ていた。

まずその山を抜き書きしてみる。

一 ス 寸 評
 ○ミンがポール新国際空港建設、二百九十億円、五洋建設十東亜建設工業十臨海土木。

二
 ○イランのテヘラン市外大団地、三千億円、竹中工務店十飯谷組十三井物産。
 ○ホンコン地下鉄・三工区三千六百萬円のうち二工区、飯谷組十前田建設工業。

日本国内の不景気などけし飛んでしまふような大きな工事である。

こんな契約の成立は、益々増に付かいは影響を及ぼしてくるだろうか。

たとえば、技術だけでなく労力も一緒にこうした超大型工事に進出して、その分だけ国内の建設業者の層がうすくなり、最終的に益々増への求人がふえてくるようなことがありはしないか。

また、外国へ進出して行く建設業者として、直接に益々増へ求人がこないか。二カニタニにいつて二つの場合が考えられるわけだが、おそらくどちらも現実には定かでないだろう。

パトナム戦争の或る時期、南ベトナム行きの人ありといふウワサが面白い。

流したものだ。もちろん米人の根本はアメリカ軍といふことである。だがこのウツサの真実が吾々はついに確認できなかつた。

ベトナム米人の場合は、もしほんとうだとしたら、アメリカを甘泉にしているといふ点で、戦争のよしあしは別問題として、日本から出て行くのにウルカイことなしにすんだかもしれない。

しかし、抜き書きしたような平和な仕事での外国行きと違い、正規の手つづきの旅券が必要とな、こくるはずだ。いれゆる派動的并竹者である釜のニンゲンに一番いやな、ニゲンなのがそういう手つづきだ。だから、釜に二つの場合のあとの方は可能性なしということになる。

はじめの方はどうか。

大工費を削減するほか、徹夜した機械化がおこなわれるはずで、いろいろな重

鉄鋼やセメントの値上げがなければ、季節に関係がなく、さらに工事量が減るに願ありとその記事は書いている。つまり今年これからのことだ。もしそうならば、一体、釜のニンゲンのフトコロ具合はいつ工面さになるのか。

あいやこれやの類見知り、現場仲間の連中が、いつとなく視察をせなく、こいる事実はお互いの身の回りにある。

飯場へ入って、と居つた者はいいとして、梅田、アンバ、阿倍野などの地下道に流れた連中、食えなくて病気になる者、ヤケでスタバコを頼んだ者もいるけれど。

オリンピック工事、万博工事、高速度路や団地やビルや学校、いふならば世のためへのため工事の一番下。ぼや、だから他にやり手のなり仕事をや、こぎた者が今は放り出されて、工事を働けた大

職のオヤレーターならともかく、体巨の二かすだけの単純并竹には不満足でも現地住民が当てられるにさま、ている。従って、釜ヶ崎への米人がふえてくるように、釜内の建設并竹者の層がくすくはなりはしないだろう。不景気下、一般的に労働力があついている現況、少々の不足は釜ヶ崎以外を補給できるといふこともある。

つまり、国内が不景気でも、大資本は國の外でモウケを稼いでいるから、体一つの前竹者は、釜のオコボレすらも手にできないといふことだ。

同じ日の同じ日本経済新聞には、去年の十一月の全国での住宅建設の着工戸数が、前月にくらべて一万三千戸も減ったといふ記事がある。

多場はいつも住宅工事が減るのは、釜に何年かいはの止むることなのだが、釜はまたもや国外まで傷けに出る行く。日頃の心がけのモンダイなどとお説教ですむことではない。これはたしかだ。とい、て、ならばこうという、すぐ役立つてここに再ち出すこともできない。痛なく、でもそれらが当面の現実である。そして釜のニンゲンも何んとか現実の中をしのぎつづけている。

だからつまさきもそんな生き方に甘んじてはいけな。外国の住い人がどうい、てるから否はなく、この現実からこそ、お互い釜のニンゲンはも、と成じ、も、と考えよう。

別のこと一つ、十一月のバンク特集を値工り予想を書いたバンクの株は一月三日には五十九円。十一月のときより七十四円も高くなる、という。まだ上るらしい。